

山元町議会議長 阿部 均 殿

産建教育常任委員会
委員長 高橋 建夫

優良市町村視察研修報告書

本委員会は、優良市町村視察研修を行ったので、その結果を下記のとおり報告します。

記

- 1 研修月日 令和元年7月29日（月）～7月30日（火）
- 2 研修地と研修項目
 - (1) 栃木県茂木町
 - ① 道の駅「もてぎ」について
Trip Base 道の駅プロジェクト参加の経緯、地域再生
戦略事業の概要、経過等について
 - ② 廃校利活用について
(旧木幡小跡地利用状況等)
 - (2) 茨城県石岡市
 - ① 廃校利活用について
(体験型観光施設「朝日里山学校」)
- 3 研修地の概要とまとめ
 - (1) 栃木県茂木町
人口12,593人、宇都宮から31km、過疎地域指定地
 - ① 道の駅「もてぎ」について
平成8年指定の栃木県内第1号の先進的道の駅、町90%出資。
・全国モデル道の駅6に選定、全国道の駅グルメ選手権「道-1グランプリ」
3連覇（ゆず塩ラーメン）、関東道の駅人気ランキング第1位。

- ・地域再生戦略事業として6次産業化に取り組み地元の農産物等原材料を活用したバウムクーヘン等積極的に商品化。
- ・4建物（4部門）で構成、おもてなし情報館（町）、アグリハウス（JA）、商工物産館（商工会）、食堂（女性団体）でスタート。
- ・H30年 来場者数（交流人口）109万人、売上高10億47百万円、全体の交流人口は317万人（H30年、内ツインリンク約100万人）
- ・「Trip Base 道の駅プロジェクト」に参加。県内第1号の道の駅、ホテル建設のスペースがあることなどから県の推奨を受け契約締結。
- ・更なる交流人口の拡大や土地の貸付料収入、雇用増等及び町の持ち出しは殆んどなくメリット大。町の活性化に繋がるものと期待。

まとめ

過疎地域指定であるが、平成の合併もせず、独自路線を歩んでいる。

それだけに「道の駅もてぎ」を主体に、次々と特色ある取り組みを打ち出している。社長は町長、小売業の出身者であり商売に精通しておりアイデアマンであるとのこと。「ツインリンクもてぎ（経営主体ホンダ）を含め町全体の交流人口は317万人。自然を活かした、町活性化のための諸施策等大いに参考にしたい。「Trip Base 道の駅」プロジェクトは町の活性化になり、町の持ち出しも特になく、企業誘致にもなり、当町でも積極的に県等関係機関に働きかけてはどうか検討すべきである。

② 廃校の利活用について

児童生徒減少により、平成18年旧木幡小閉校、当初町での廃校利用を検討したが、その後一般公募に変更。平成20年民間企業と契約。月5万で賃貸（指定管理料なし）。田舎暮らしを希望するシニア世代をサポートする支援事業主体に「昭和村」として運営。ふるさと体験、農業体験、カルチャースクール、トリアスロン等企画。こころ宿 NAGOMI 宿泊施設としても活用。グラウンドはオートキャンプ場に利用している。

なお、平成28年には中学校も3校から1校に統合、廃校跡地利用公募するも視察に来たのは1社のみで契約にはいならず、利活用方法は継続検討中である。

まとめ

廃校利用には時間がかかる。指定管理だけではなく、民間企業とのタイアップなど総合的見地から、賃貸借や無償での貸出等の検討、また、町内だけでの検討でなく広くPRし公募する事も必要ではないかと考える。

(2) 茨城県石岡市

八郷地区の朝日里山学校は、首都圏から70kmという近さにある。

①廃校利活用について

朝日里山学校は、昭和30年に建てられ、平成16年3月に廃校になった木造建築の小学校を平成19～20年、国の交付金を受け石岡市が外観は残したまま改修工事（補助率2分の1）を行った。平成20年11月、体験型観光施設「朝日里山学校」としてオープン、平成22年4月、指定管理制度により「NPO法人アグリやさと」が管理運営を行う。指定管理者になる際、石岡市より「役割」、「目的・実現方策」等の指針が明文化されている。

○活動内容

- ・食体験、農業体験、工芸体験、林業体験、座禅体験等
- ・イベント（そば祭り、いちご祭り等）
- ・食事の提供（田舎バイキング、そば、カレー、バーベキュー等）
- ・就農を考えている人の農業体験
- ・プロの農家になる人の研修農場「朝日里山ファーム」
- ・H30年度の利用者は来校舎人数 15,000名（見学者は除く）

以上、多くの事業を行っており、やさとグリーンツーリズム協議会、専門指導員、市（観光課、農政課）、県（農村計画課）、JAやさと、市観光協会、農協観光等旅行会社と連携し運営体制を整えている。

専業従業員はJA出身の代表者含め7人（女性3名）、全て60歳以上、客が少ない時は2名が留守番、多い時はそば仲間やピザ仲間を臨機応変に動員し対応、賃金は従業員と同じ時給制。若い人は賃金の面で就労難しいが、60歳以上の体験豊富な方に協力を得ており、ボランティアはない。利用者の約半分はリピーターである。

年間事業計画は過去の実績を参考にすも、どの体験事業も全て事前予約でこれに全て答える事にしており、あらためて計画は立てない。

これまでの苦労は、そば打ち、ピザ作り等の道具を揃えることだったが20万以下の備品は自分たちで用意し、その他は市と協議し決めている。市に対する報告は、各事業の参加者数ぐらいである。事業として、指定管理費含め、これまで採算を確保している。

まとめ

廃校を利用した「朝日里山学校」は、関東の名峰「筑波山」の東山麓に位置し、自然豊かで、温暖な気候に恵まれ、農林畜産物が豊かで、特に、果樹栽培が盛んである。「田舎体験」を通して「食と農」の大切な、自然環境の教育の場、心の安らぎの場として活かそうと取り組んでいる。

当町も同じく自然、農産物、果樹、海産物が豊かで、交通網も整備されており廃校利用に大いに反映、参考にすべきと考える。